

1. 学校教育目標

浦安市学校教育推進計画の基本目標である「自ら学び自他を尊重する心と新しい時代を切り拓きしなやかに生きる力の育成」をめざし、学校教育目標を次のように定める。

「志を高く掲げて、自分色に光り輝く生徒の育成」

スローガン ～TAKASU 最幸～

2. めざす生徒像：自主的から自発的に→手応えを実感

- (1) 自ら学び、身に付けた知識や技能を活用する生徒（主体的学び）
- (2) 自分や他人のよさを認め、互いに尊重し合う生徒（自他を尊重する心）
- (3) いのちを大切にし、健康でたくましい生徒（健やかな体）
- (4) 適切に表現する力を身に付け、人や社会に積極的にかかわる生徒
(豊かなかかわり参画・交流)
- (5) 我が国やふるさと浦安に誇りを持ち、多様な文化を大切にする生徒
(豊かなかかわり郷土愛)

3. めざす学校像：高洲地区をふるさとに→高洲中学校が最幸

- (1) 一人一人を大切にし誰一人取り残さず、生徒が夢や希望を抱き、安心して学習、生活する学校
- (2) あいさつ、対話、歌声が響き合い、誰もが挑戦できる学校
- (3) 9年間の学びの連続性を意識し、小中学校の連携を強め、地域に根差し、家庭や地域と積極的に連携する学校（CS：学校地域連携運営協議会とともに）
- (4) 教職員がチームとして支え合い、相手を尊重し同じ想いを持って共に学び合い、力量を高める学校

4. めざす教師像：信頼される教師

- (1) 生徒の幸せを願い、使命感あふれる教師
- (2) 心身ともに健康で、日々の教育実践に最善を尽くす教師
- (3) 生徒一人一人の学びを保障する授業づくりに努め、手応えを実感できる教師
- (4) 生徒の声に耳を傾け、安心・安全に生活することを最優先に考える教師
- (5) 温かい人間関係を築き、互いを認め合い、励まし合い、高め合う教師
- (6) 学び続ける姿勢を持ち、研修に積極的に参加する教師

5. 学校生活の基本姿勢

「凡事徹底」：「時を守り、場を清め、礼を正す」《率先垂範の徹底》

(1) 「時を守る」について 予鈴を意識した行動

授業開始や着席の時間、宿題・提出物の期限を守り、物事に取り組む「構え」をつくらせることを大切にする。教職員自身も実践し、日々の教育活動に説得力のある姿勢であたる。

(2) 「場を清める」について 清潔感ある学校

清掃に真剣に取り組む、ゴミが落ちていたら拾う、下駄箱の靴を揃える、机やロッカーなど身の回りを整頓する等、生活環境を整えることができる生徒の育成を行います。教職員自身も職場環境の整美、整理整頓に努める。

(3) 「礼を正す」について

相手を認め、互いに分かり合える土壌をつくとともに、挨拶や返事の意味を理解させ、気持ちの良い挨拶ができる学校を目指す。教職員自身も挨拶の励行に努め、場に応じた正しい言葉遣いを意識する。

6. 今年度の重点目標（1、2、5、8）と方策

(1) 「進んで学ぶ（自学）」「楽しく学ぶ（意欲）」「学び合い（共学）」を意識し、学習意欲の向上と学力の定着を図り、未来を生きる学力・人間力を育成する。

①指導法の工夫・改善で授業の質向上（「主体的・対話的で深い学び」の実現へ）

②教科部会の充実（評価の材料の明確化、評価計画、単元テスト等の共通理解）

③定期テスト前の学習会、期間を設けて補習を実施する。家庭学習について具体的な支援の実施

④読書活動の推進・・・朝読書の継続。生徒の豊かな知性や感性の育成と「読解力」の育成

(2) 生徒理解を要とした積極的な生徒指導の推進（未然防止）

①受容的・共感的な生徒指導の推進・・・信じる、認める、任せる

※個別に支援が必要な生徒への支援はもちろん、努力が表出しづらい生徒やコミュニケーションが取りづらい生徒等に焦点をあて、誰一人取り残さない。

②生徒が安心して力を発揮できる、あたたかな学級づくり

・他者と積極的に関わり、生徒一人一人が安心して意見を言い合える、失敗を恐れず挑戦できる学級・学年をつくる。仲間と共に目標を達成する心地良さを体験させる。

・話し手だけでなく聞き手も育て、話し合い活動の質を高める。

③自他共に命を大切にする意識の高揚

・いじめに係る正しい理解の推進（教職員・生徒・保護者、地域）

・いじめの未然防止並びに認知時の適切かつ組織的対応の徹底

・自殺予防教育的視点をもった指導

(3) 道徳教育の充実

- ①担任が行う道徳、パッケージ方式で行う学年道徳を意図的、計画的に実施し、指導方法や評価の在り方について研修しながら、**高洲中スタンダードを確立**する。

(4) キャリア教育の充実

- ①**職場体験**や外部人材を活用し、多様な価値観に触れ、生徒に「夢」や「憧れ」を持たせられるようにする。
- ②小学校・中学校・高校と**学びの連続性を意識し、系統性を持って**取り組んでいく。

(5) ICT教育の充実

- ①タブレットをわかる授業・探求のためのツール、自分の考えを表現するためのツールとして積極的に活用する。
- ②各教科・領域で**タブレットを活用する場面を明確**にし、その効果を積み重ねる。

(6) 特別支援教育の充実

- ①一人一人のニーズに応じた**教育的支援**の充実・・・個別の教育支援計画・指導計画を有効に活用し、計画的・継続的な見直しを行う。**誰一人取り残さない**。
- ②特別支援学級（8組）と通常の学級との交流及び共同学習の積極的な推進
- ③関係諸機関との連携・協力の強化 ※ケース会議の開催

(7) 不登校傾向の生徒への対応

【目的】居場所づくりと自己理解、社会へ出る土台作り（生きる力を育てる）

- ①**早期発見、早期対応**を心がけ、S L C・S Cも含め、**組織で対応**する。
- ②いちょう学級等、関係諸機関との連携を密にし、一人一人に応じた**対応**を行う。**誰一人取り残さない**。

(8) 高洲中学校区小中連携・一貫教育の推進

- ①学区重点目標（グランドデザイン）の具現化に向けた教職員の連携
- ②**相互乗り入れ授業の段階的導入**
- ③児童・生徒の交流活動の充実

(9) 教職員のモチベーション向上と働き方改革の推進

- ①学年や教科部会を基本とした「助け合い」「励まし合い」「**気軽な相談**」の推進
- ②風通しのよい職場、**ボトムアップによるモラールアップ**の推進
- ③業務を精選し、役割分担、協力体制を明確にし、**効率的な働き方**を追求